

農

学生生活ハンドブック

二〇一六

学生生活ハンドブック

東京農業大学
2016

この本の内容は、学生ポータルサイトで閲覧することができます。
学生ポータルサイトについては、22ページをご覧ください。

東京農業大学生物産業学部



オホーツクキャンパス / 大学院生物産業学研究科・生物産業学部
〒099-2493 北海道網走市八坂 196

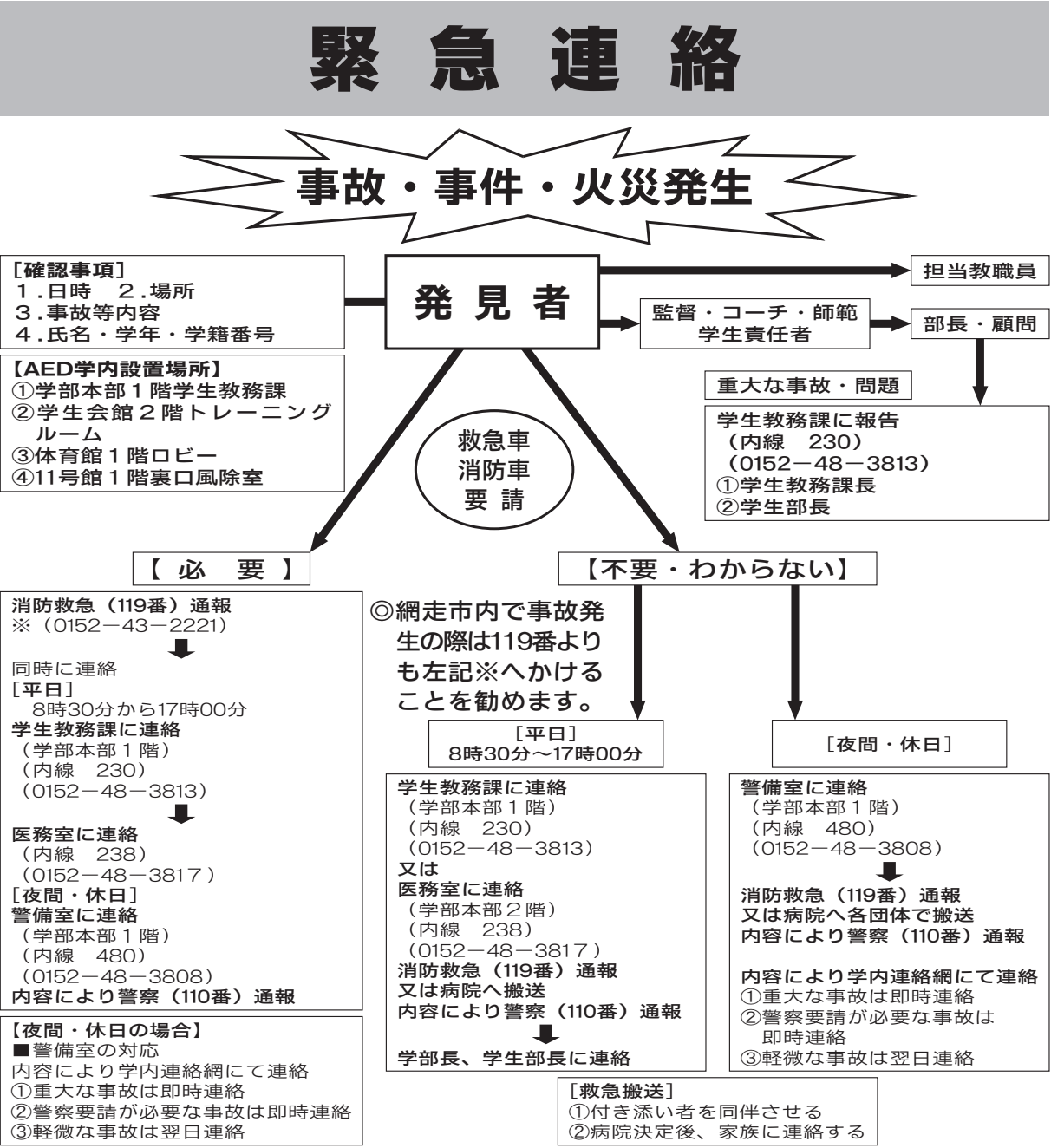
世田谷キャンパス / 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

厚木キャンパス / 〒243-0034 神奈川県厚木市船子 1737

生物産業学部

学生個人情報保護に関する本学の取り組みについて

本学では、学生の皆さんの教育研究及び生活支援に必要な業務を遂行するために個人情報を扱っております。このたびの個人情報保護法施行に際し、個人情報の保護に関する法律や政令、文部科学大臣が定める指針等の基準を遵守しながら、適切な取り扱いの取り組みを行っています。



(東京農大精神)



本学の初代学長横井時敬先生が好んで使われた言葉で、東京農大の精神といわれています。現代流に言えば「物質主義に溺れることなく、心身ともに健全で、いかなる逆境にも挫けない気骨と主体性の持ち主たれ」ということです。

CAMPUS2016

目次 contents

建学の理念 ー実学主義の伝統ー	4
大学の沿革	5
『人類の幸せのために』	8
「オホーツク学」に基づく人間力と 創造力を育むキャンパスライフ	9
大学組織及び生物産業学部教員	10
Campus Map	12
平成28年度(2016年度)東京農業大学 生物産業学部年間授業計画	14

I 生 活 編

事務の窓口業務について	16
証明書・学割・各種届出について	17
願出・届出をしたいとき	18
学 生 証	20
定期券購入の仕方	21
インターネットを利用した学生サービス	22
学生ポータルサイトを確認しよう!	25
守ってほしいこと	26
学生駐車場	28
やめよう! 路上迷惑駐車	29
交通事故防止やそれに関わる トラブル防止	30
エコドライブのすすめ	31
飲酒について	32
絶対にやめよう	33
家庭ごみの分け方・出し方	34
エコロジーキャンパスの取組み	35
守ってほしいこと	36
奨 学 制 度	38
福利厚生～健康管理	42
感 染 症	45
ハラスメント防止	46
防災について	47
傷 害 補 償	48
スポーツ共済の加入について	49

課 外 活 動	50
農 友 会	50
全学応援団	51
同 好 会	52
オホーツク学生会館について	53
農場宿泊施設の利用について	54
アルバイト・下宿・アパートの 紹介について	55
冬の生活注意辞典	56
就職と職能・資格講座について	57
キャリア課案内	58
キャリア フロア案内図	59
国際教育プログラム・ 外国人留学生支援	60
こんなときどうするの? Campus Life Q&A	65

II 学 修 編

履修するということ	68
学生諸君への注意事項	68
1. 授業科目と単位制	69
2. 授 業	69
3. 履修計画・履修登録	71
4. 試 験	73
5. 成 績	75
6. 進 級	77
7. 卒業・学位	77
8. そ の 他	78
9. 各種資格取得について	79
10. 他大学との単位互換について	81
11. 地域産業経営学科学生の単位互換について	81
12. 配当科目一覧	
(1) 生物生産学科授業科目配当表	82
(2) アクアバイオ学科授業科目配当表	84
(3) 食品香粧学科授業科目配当表	86
(4) 地域産業経営学科授業科目配当表	88
(5) 全学共通科目	91

オホーツク学術情報センター 利用案内	95
生物資源開発研究所	100
大学農場案内	101
伊勢原農場	102
富士農場	104
宮古亜熱帯農場	106
網走寒冷地農場	108
食品加工技術センター	110
オホーツク臨海研究センター	111
Campus information	112

資料編 113

東京農業大学学則(抜粋)	114
学校法人東京農業大学学費収納処理 要領(抜粋)	119
学生生活についての基準	120
遺失物及び拾得物取り扱い要領	121
特待生細則・生物産業学部特待生細則 運用内規	122
東京農業大学奨学生規程	123
東京農業大学外国人留学生奨学生 規程	123
学校法人東京農業大学ハラスメント 防止等に関する規程	124
東京農業大学オホーツクキャンパス ハラスメント相談内規	126
東京農業大学学生懲戒規程	126
東京農業大学学生教育研究災害補償 内規・実施要領	127
学生死亡弔慰金内規	129
課外活動における教室使用要領	129
東京農業大学海外派遣学生プログラム 実施要領	129
東京農業大学海外派遣・受入学生弔慰 見舞金要領	130
自動車・二輪車乗り入れ登録要領	130
東京農業大学学術情報センター [オホーツク]利用規程	131

東京農業大学学術情報センター [オホーツク]情報関連設備利用内規	132
東京農業大学ネットワーク利用 ガイドライン	135
オホーツク学生会館使用要綱	137
校舎配置図	138
学部本部棟(1号館)	139
研究講義棟(2号館)	140
第一食堂棟(3号館)・学術情報 センター(4号館)	142
第一研究実験棟(5号館)	143
体育館(6号館)	146
第二食堂棟(7号館)	147
講義実験棟(8号館)	148
食品加工技術センター(9号館)	150
オホーツク学生会館(10号館)	151
第二研究実験棟(11号館)	152
東京農業大学学歌	155
東京農業大学オホーツク・キャンパス 讃歌	156

建学の理念

実学主義の伝統



創設者 榎本武揚子爵

東京農業大学は明治24年3月6日、榎本武揚^{えのもとたけあき}によって、徳川育英会を母体にした私立育英農科として設置されました。

育英農の後身「東京農学校」第2回卒業式の式辞として榎本武揚は、次のように述べています。

「我農民特有の能力に加ふるに、學術と実験とを以て、農業に属する各般の改良を図らば、其の国家の富源を増進すべきこと、決して擬を容るべからず。(中略)諸子其れ本校に於て得たる所の技能を実際に施し、以て父兄の業を拡張し、更に進んで国家富強の基を開かれんこと拙者が諸子に望む所なり。」

この言葉は、農業の発展が近代国家の建設にとって極めて重要であり、それを担う農業後継者である卒業生に送ったものです。当時は官立の農学校の創草期でしたが、官吏養成を主目的としない、わが国はじめての私立の農学校として設立した本学の建学の理想がうかがえます。



初代学長 横井時敬博士

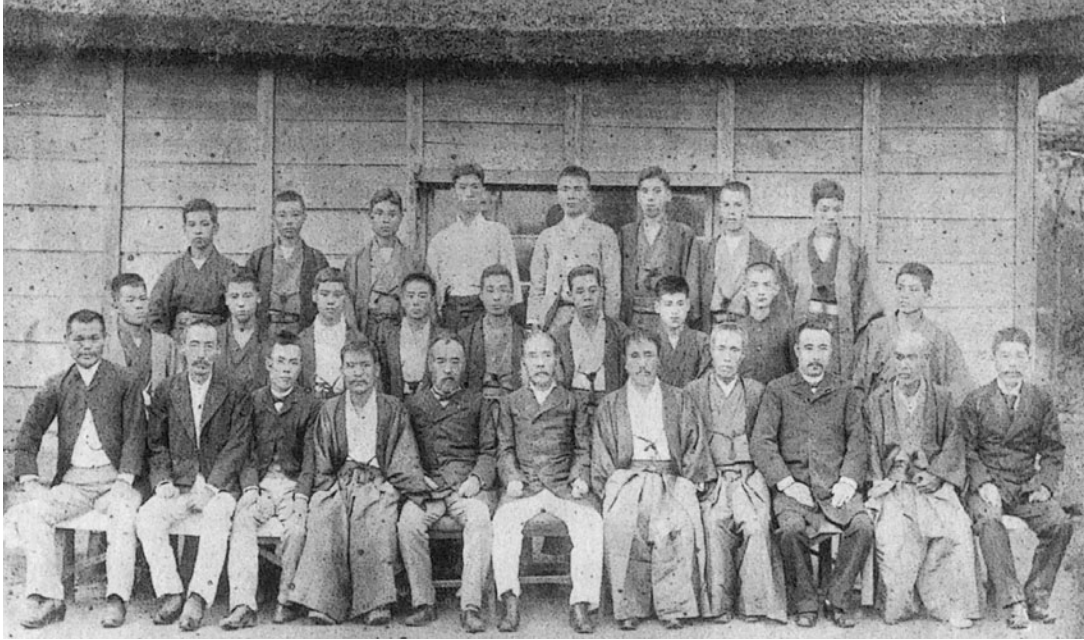
本学の建学の理念を築いたのは、明治30年から昭和2年までの30年間、心血を注ぎ、本学を育成した、わが国近代農業の鼻祖といわれる初代学長横井時敬^{よこいときよし}です。

横井時敬は農学の教育研究をとおして農業、農業関連産業及び農村文化・農村社会の発展に寄与する人材の育成を目指し、その教育理念を「実学主義」におきました。横井時敬の「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」は、今もって本学における研究教育の精神的支柱になっており、観念論を排し実際から学ぶ姿勢をこの言葉に込めています。

そして「人物を畑に還す」と。さらに「農学栄えて農業亡ぶ」という警世の句を残し、教育研究は学問のための学問を排し産業界から遊離しない実学研究でなければならないとしました。

また人格の陶冶を、質実剛健^{しつじつこうけん}、独立不羈^{どくりつふき}、自彊不息^{じきやうやす}の言葉で表現し、「気骨と主体性」をもった紳士の育成を目指しました。

大学の沿革



第一回生卒業記念写真（明治26年）

- | | |
|-------------|--|
| 1891(明治24)年 | 徳川育英会による育英農農業科として、東京市麴町（現千代田区）飯田河岸に設立。管理長は榎本武揚、 ^{ながもちめいとく} 農長は永持明德。 |
| 1892(明治25)年 | 東京市小石川区（現文京区）大塚窪町に移転。育英農分農農業科となる。 |
| 1893(明治26)年 | 私立東京農学校と改称。 |
| 1897(明治30)年 | 大日本農会附属私立東京農学校と改称。教頭に横井時敬就任。 |
| 1898(明治31)年 | 東京府豊多摩郡渋谷村常磐松（現渋谷区渋谷4丁目）に移転。 |
| 1901(明治34)年 | 大日本農会付属私立東京高等農学校と改称。 |
| 1903(明治36)年 | 専門学校令による許可を受ける。 |
| 1905(明治38)年 | 農商務省から耕地整理講習部設置委託の命令を受ける。 |
| 1907(明治40)年 | 校長に横井時敬就任。 |
| 1911(明治44)年 | 私立東京農業大学と改称し、初代学長に横井時敬就任。
大学部（本科、予科）及び高等科設置。 |
| 1913(大正2)年 | 大学構内に東京農業大学肥料分析講習部（後に農芸化学講習部と改称）を設置。 |
| 1924(大正13)年 | 大学構内に東京高等造園学校を設立。 |
| 1925(大正14)年 | 財団法人東京農業大学の認可を受ける。大学令による東京農業大学となり農学部農学科及び予科を設置。
専門学校令による東京農業大学を東京農業大学専門部と改称し、農学科及び農芸化学科を設置。 |
| 1927(昭和2)年 | ^{きつかわすけてる} 第2代学長に吉川祐輝就任。 |
| 1937(昭和12)年 | 専門部に農業拓殖科（後に開拓科と改称）を増設。 |
| 1938(昭和13)年 | 農学部に農業経済学科を増設。 |

1939(昭和14)年	第3代学長に佐藤寛次 ^{さとうかんじ} 就任。
1940(昭和15)年	専門部に農業工学科（後に農業土木学科と改称）を増設。
1941(昭和16)年	専門部に農村経済科を増設。
1942(昭和17)年	東京高等造園学校を合併し、専門部に造園科（後に緑地土木科、さらに緑地科と改称）を増設。
1945(昭和20)年	農学部 ^に 農芸化学科及び農業土木学科を増設。 5月戦災をこうむり校舎、諸設備の大部分を焼失。終戦とともに樺太農場（約192ha）、満洲農場（7,500ha）を失う。
1946(昭和21)年	東京都世田谷区（現在地）の旧陸軍機甲整備学校跡に移転。
1947(昭和22)年	千葉県茂原市に千葉農学部 ^を 開設し、専門部林業科と畜産科を増設。 専門部開拓科を廃止。
1949(昭和24)年	学校教育法による新制大学設置の認可を受け、農学部 ^に 農学科・林学科・畜産学科・農業化学科・農業工学科・農業経済学科・緑地学科・協同組合学科（25年廃止）を設置。
1950(昭和25)年	東京農業大学短期大学を併設。農業科・醸造科他5科を設置するが後に5科は廃止。
1951(昭和26)年	学校法人東京農業大学の寄附行為設置が認可された。
1953(昭和28)年	農学部 ^に 醸造学科を増設。 大学院農学研究科修士課程農学専攻・農業経済学専攻を設置。
1954(昭和29)年	農業化学科を農芸化学科に改称。
1955(昭和30)年	第4代学長に千葉三郎 ^{ちばさぶろう} 就任。
1956(昭和31)年	農学部 ^に 農業拓殖学科を増設。緑地学科を造園学科に改称。 短期大学に栄養科増設。
1957(昭和32)年	大学院農学研究科に修士課程農芸化学専攻を増設。
1959(昭和34)年	大学院農学研究科に博士課程農芸化学専攻を増設。 第5代学長に三浦肆玖楼 ^{みうらしきろう} 就任。
1961(昭和36)年	第6代学長に内藤敬 ^{ないとうけいし} 就任。
1962(昭和37)年	農学部 ^に 栄養学科を増設。 大学院農学研究科に博士課程農学専攻及び農業経済学専攻を増設。
1968(昭和43)年	栄養学科を栄養学専攻と管理栄養士専攻に専攻分離し、昭和40年度入学生に遡って適用した。
1971(昭和46)年	第7代学長に平林忠 ^{ひらばやしただし} 就任。
1975(昭和50)年	第8代学長に鈴木隆雄 ^{すずき たかお} 就任。
1985(昭和60)年	短期大学長に石丸圀雄 ^{いしまるくに お} 就任。
1986(昭和61)年	大学院農学研究科に修士課程林学専攻、畜産学専攻、食品栄養学専攻を増設。
1987(昭和62)年	第9代学長に松田藤四郎 ^{まつだとうしろう} 就任。
1989(平成元)年	北海道網走市に生物産業学部（生物生産学科・食品科学科・産業経営学科）を新設。 短期大学長に松田藤四郎就任。
1990(平成2)年	大学院農学研究科林学専攻、畜産学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。博士後期課程生物環境調節学専攻、修士課程農業工学専攻、醸造学専攻、国際農業開発学専攻、造園学専攻を増設。 これにより、大学院農学研究科に11専攻となる。 東京農業大学短期大学を東京農業大学短期大学部と校名変更。

- 1991(平成3)年 農学部農業拓殖学科を農学部国際農業開発学科に改称。
天皇皇后両陛下ご臨席のもと創立100周年記念式典(於東京プリンスホテル)を挙行。
- 1992(平成4)年 短期大学部農業科を、生物生産技術学科及び環境緑地学科に改組。
短期大学部醸造科を醸造学科に、短期大学部栄養科を栄養学科に改称。
- 1993(平成5)年 大学院生物産業学研究科修士課程生物産業学専攻を増設。
- 1995(平成7)年 大学院生物産業学研究科生物産業学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。
- 1998(平成10)年 農学部10学科を、農学部(農学科、畜産学科)、応用生物科学部(バイオサイエンス学科/新設、生物応用化学科/農芸化学科改称、醸造科学科/醸造学科改称、栄養科学科/栄養学科改称)、地域環境科学部(森林総合科学科/林学科改称、生産環境工学科/農業工学科改称、造園科学科/造園学科改称)国際食料情報学部(国際農業開発学科、食料環境経済学科/農業経済学科改称、生物企業情報学科/新設)に改組。
神奈川県厚木市船子に厚木キャンパス(農学部)新設。
3キャンパス6学部19学科体制スタート。
- 1999(平成11)年 第10代学長に^{しんじいそや}進士五十八就任。
ISO14001の認証を取得
- 2002(平成14)年 大学院農学研究科に修士課程バイオサイエンス専攻、国際バイオビジネス学専攻を増設。醸造学専攻、食品栄養学専攻、農業工学専攻、造園学専攻、国際農業開発学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。
大学院2研究科14専攻体制スタート。
- 2004(平成16)年 大学院農学研究科バイオサイエンス専攻、国際バイオビジネス学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。
- 2005(平成17)年 国際食料情報学部生物企業情報学科を国際バイオビジネス学科に改称。大学院農学研究科博士後期課程生物環境調節学専攻を環境共生学専攻に改称。
第11代学長に^{おおさわかんじゅ}大澤貫寿就任。
- 2006(平成18年) 農学部バイオセラピー学科、生物産業学部にあくアバイオ学科を増設。
- 2010(平成22年) 生物産業学部食品科学科を食品香粧学科に改称。
大学院農学研究科に修士課程バイオセラピー学専攻を増設。
大学院生物産業学研究科博士前期課程にあくアバイオ学専攻を増設、既存の生物産業学専攻の博士前期課程を、生物生産学専攻、食品科学専攻、産業経営学専攻の3専攻に改組。
- 2012(平成24年) 大学院農学研究科バイオセラピー学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。
生物産業学部産業経営学科を地域産業経営学科に改称。
- 2013(平成25年) 第12代学長に高野克己就任。
大学院生物産業学研究科博士前期課程食品科学専攻を食品香粧学専攻に改称。
- 2014(平成26年) 応用生物科学部栄養科学科(食品栄養学専攻・管理栄養士専攻)を食品安全健康学科と栄養科学科の2学科に改組。



『人類の幸せのために』

東京農業大学
東京農業大学短期大学部

学 長 ^{たか の かつ み} 高 野 克 己

入学おめでとう。大学を代表して心から歓迎します。

東京農業大学は、明治期に通信、文部、外務、農商務大臣を歴任した近代日本の国際人であり科学者でもある子爵榎本武揚公により、明治24（1891）年に徳川育英会を母体とした私立育英農科として創設され、今年で創立125周年を迎えました。榎本公は、徳川幕府から留学生としてオランダへ派遣され、蒸気機関学、船舶運用術などの専門を学び、さらには科学全般や国際法などの分野も貪欲に勉強し見識を広げられました。帰国後は、経験により得た知識や見識により、当時我が国では誰も試みることがなかった石鹼やチョーク、焼酎の製法などを研究し、製造するなどしました。また北海道開拓にも携わり、その地に独立国「蝦夷共和国」の樹立を夢見ました。その夢はかないませんでした。榎本公はこれまでの実学的経験から、これからの産業発展に先進的科学技術、特に「農業」の発展が近代国家の建設に極めて重要であると考え、本学を創設しました。

榎本公は、農場実習や農家支援などの「実学教育」を重要視しました。この本学の実学教育を継承し発展させるのが、糶の塩水選法を考案した我が国農学の先駆者、初代学長の横井時敬先生です。本学の教育研究の理念「実学主義」は、横井先生の言葉「稲のことは稲に聞け。農業のことは農民に聞け」に込められています。机上の理論ではなく、その物、現場で自らの五感を駆使して、課題を発見し、その課題がなぜ起きているのかを自ら考え、科学的に実証するということです。

現代は人類の叡智により自然の恵みを享受し、高度に複雑化した社会に発展しています。一方では、地球規模の気候変動に伴う環境変化と自然災害の増加、人口増加による食料危機、水不足、生活環境の悪化、経済格差の拡大など、地球とそこに生きる多様な生き物、人類の生存を脅かす課題に直面しています。

これらの課題は、まさしく人類の生存にかかわる農学領域の範疇であり、我々東京農大生は、この社会をしっかりと見据え、社会と人々の期待に応えるべく、生命・食料・環境・健康・エネルギー・地域創成をキーワードとして課題解決していく、これが皆さんに課せられた使命です。この使命を果たすことが、人類の幸せに貢献することになります。

自然界に目を向ければ、そこには人知を超えた摂理があり、多くの生命の犠牲のうえに成り立っている人間の命もその一環です。皆さんには「生命（いのち）」の大切さ、尊さを東京農大で学び「農のこころ」を育み、社会に羽ばたいていくことを期待します。

そのための教育カリキュラムを十分に備えています。また本学は教室での講義や実験実習だけでなく、研究室での活動を教育研究の主体としています。「研究を通じ人物を育て、研究を通じて教育をする」これが本学の基本です。学生と教職員がフェイスtoフェイスで教育研究ができる環境を整えています。教職員とのコミュニケーションをよく取りながら、これからの学生生活を有意義に過ごして下さい。

この『学生生活ハンドブック』を有効に活用し、皆さんが、いきいきとチャレンジ精神旺盛な大学生活を送ることを希望します。



「オホーツク学」に基づく人間力と 創造力を育むキャンパスライフ

学部長 黒 瀧 秀 久

新入学生の皆さん、入学おめでとうございます。生物産業学部を代表して心より歓迎いたします。皆さんは、全国各地からこのオホーツクの地に集まって来られました。各々の入学の動機や学びたいことは異なりますが、これからのキャンパスライフは、同じ東京農業大学の学生として、互いに切磋琢磨するなかで、このオホーツクの地にて人間力と創造力を磨き上げていただきたいと思います。

今年、東京農業大学は創立125周年を迎える記念の年となりますが、生物産業学部は1989年に開設され、28年目を迎えます。キャンパスが立地するオホーツク地域は、世界自然遺産に登録された知床半島をはじめ、多様な動植物が生息する豊かな自然環境が育まれています。この豊かな自然環境を背景に、広大な圃場からは高品質の農産物が、世界4大漁場のオホーツク海や多数の湖沼からは豊富な水産物が生産され、オホーツクは日本でも有数の食料生産基地となっています。

現在、地域社会では、自然環境と人間活動との軋轢から生じた環境問題や、地域の主幹産業である農林水産業の衰退、それにとまなう少子高齢化、生活支援機能の低下など、様々な問題を抱えています。この地域の複雑な問題を解決し、地域を活性化するためには、教室のなかだけで得る知識だけでは対応できません。社会経験や現場体験を通じた「実学」として創造的な研究活動が求められます。

これは本学の初代学長・横井時敬先生の“**稲のことは稲に聞け**”という言葉に象徴される、本学伝統の「**実学主義**」に通ずるところです。さらに、この実学主義の根底に流れるのは、本学の創設者・榎本武揚先生のフロンティアスピリッツです。榎本先生は147年も前に北海道を開拓し、「蝦夷共和国」の設立を夢見ました。**生物産業学＝「オホーツク学」**の原点はここにあるのです。

本学部では、教育研究のフィールドとして優れたこのオホーツクの地を最大限に活用した「オホーツク学」を展開しています。「**オホーツク学**」は本学部の基本コンセプトである“生産－加工－流通・ビジネス”というフードシステムを体系的に学ぶ自然科学と社会科学の文理融合による学部独自の教育プログラムです。

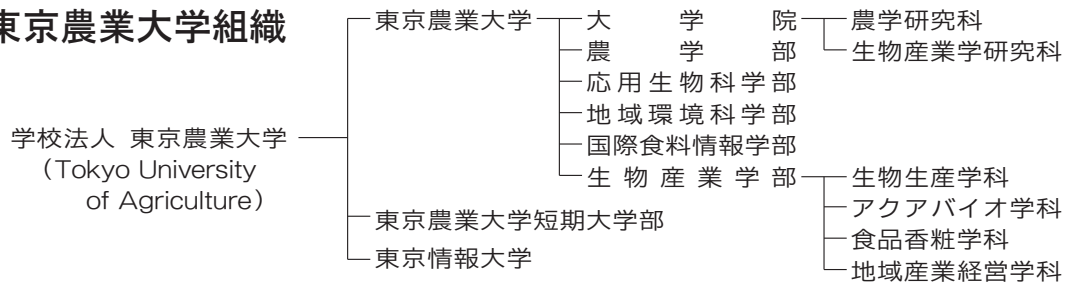
皆さんには、何事においても主体性を持って自主的に取り組んでいただかななくてはなりません。本学部では、「共通演習」を通じて「オホーツク網走マラソン」の運営に参画するなど、地域に密着した現場体験を通じて人間力を高め、ものごとの本質の捉え方や考え方を学び、分析力や判断力などを養います。皆さんも榎本先生のように、フロンティアスピリッツに溢れた強靱な精神で人間力と創造力を磨いていただきたいと思います。そのための手引書がこの「**学生生活ハンドブック**」です。

「**生活編**」では、学生としての基本ルールを中心に、福利厚生などの諸制度、課外活動のガイドなど学生生活を送る上で必要なことが記載されています。「**学修編**」では、配当科目、履修科目の組み立て（履修計画）、定期試験、各種の資格取得、卒業要件など単位取得に必要な事項が記載されています。さらに、学習情報センター（図書館とコンピューター教室）の利用方法、留学や短期海外実習、就職活動など卒業後の進路についての情報も記載されています。有意義な学生生活を送るためには、この「**学生生活ハンドブック**」は必読品となります。

最後に、榎本フロンティア入試で合格された皆さんを含め、榎本先生の格言“**冒険は最良の師である**”のように、どんなことにもチャレンジ精神を持って取り組んでいただき、そこから得た知識や経験を糧に、楽しくて意義のあるキャンパスライフを過ごしていただきたいと思います。

大学組織及び生物産業学部教員

1 東京農業大学組織



2 生物産業学部教員組織 (Faculty of Bioindustry)

学 長	高野 克己	学部長	黒瀧 秀久	学生部長	吉田 穂積
◇生物生産学科 (Dept.of Bioproduction)					
学科長	相馬 幸作	主 事	白木 彩子		
植 物 生 産 分 野	作物生産管理学研究室	教 授	吉田 穂積		
		教 授	伊藤 博武		
		准教授	中丸 康夫		
		助 教	笠島 真也		
	植物バイオテク研究室	教 授	小栗 秀		
		准教授	坂本 光		
動 物 生 産 分 野	動物生産管理学研究室	教 授	相馬 幸作		
		助 教	大久保倫子		
	動物バイオテク研究室	教 授	亀山 祐一		
		准教授	下井 岳		
生 物 資 源 保 全 分 野	生態系保全学研究室	教 授	寺澤 和彦		
		准教授	中村 隆俊		
		准教授	白木 彩子		
		准教授	和田 健太		
		准教授	平山 博樹		
◇アクアバイオ学科 (Dept.of Aquatic Bioscience and Industry)					
学科長	白井 滋	主 事	金岩 稔		
水 産 資 源 分 野	水産増殖学研究室	教 授	千葉 晋		
		助 教	園田 武		
		助 教	高橋 潤		
	水産資源管理学研究室	教 授	小林 万里		
		准教授	金岩 稔		
ア ク ア バ イ オ テ ク 分 野	水圏生産科学研究室	教 授	渡邊 研一		
		准教授	松原 創		
	水圏基礎生物学研究室	教 授	白井 滋		
		准教授	山家 秀信		
オ ホ ー ツ ク 水 圏 環 境 分 野	水 圏 生 態 学 研 究 室	教 授	瀬川 進		
		教 授	西野 康人		
		准教授	中川 至純		
	水 圏 環 境 学 研 究 室	教 授	塩本 明弘		
		助 教	朝隈 康司		

◇食品香粧学科 (Dept.of Food and Cosmetic Science)

学科長	山崎 雅夫	主 事	妙田 貴生		
開 発 加 工 分 野	食 の 化 学 研 究 室	教 授	佐藤 広頭		
		教 授	山崎 雅夫		
		准教授	中澤 洋三		
食 品 安 全 分 野	応用微生物学研究室	教 授	中川 純一		
		准教授	遠藤 明仁		
医 食 香 粧 分 野	生 物 化 学 研 究 室	教 授	渡部 俊弘		
		教 授	丹羽 光一		
		教 授	相根 義昌		
		教 授	辻野 義雄		
	香 り の 化 学 研 究 室	教 授	戸枝 一喜		
		教 授	堀 容嗣		
		准教授	妙田 貴生		

◇地域産業経営学科 (Dept.of Business Science and Regional Development)

学科長	菊地 哲夫	主 事	上田 智久		
地 域 産 業 経 営 分 野	生 物 産 業 経 営 研 究 室	教 授	長澤 真史		
		准教授	笹木 潤		
	環 境 ビ ジ ネ ス 研 究 室	教 授	黒瀧 秀久		
		教 授	木村 俊昭		
		准教授	菅原 優		
		助 教	小川 繁幸		
地 域 産 業 連 携 分 野	地 域 活 性 化 研 究 室	教 授	美土路知之		
		准教授	松村寛一郎		
	地 域 企 業 経 営 研 究 室	准教授	上田 智久		
		准教授	松村 広志		
		助 教	坂田 圭子		
	戦 略 的 マ ー ケ テ ィ ン グ 研 究 室	教 授	菊地 哲夫		
		准教授	野村比加留		

◇生物産業学部共通

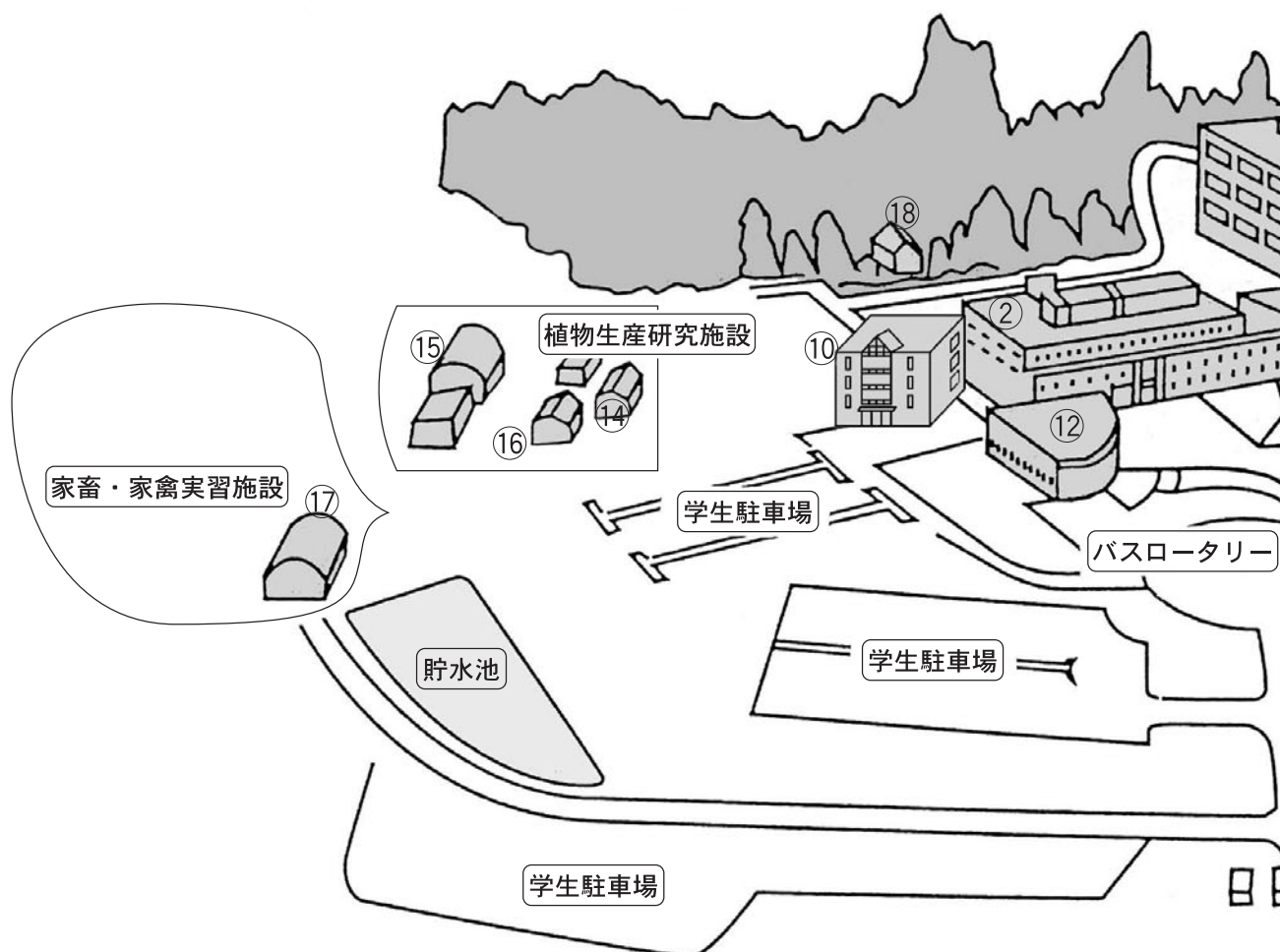
教 養 分 野	外 国 語 第 一 研 究 室	准教授	西田 晴美		
	外 国 語 第 二 研 究 室	准教授	君島 利治		
	外 国 語 第 三 研 究 室	准教授	網谷 祐一		
		准教授	范 為仁		
	健 康 科 学 研 究 室	准教授	南 和広		
	教 育 学 研 究 室	教 授	入宇田尚樹		
		教 授	長塚 好和		
		准教授	後藤広太郎		
	博 物 館 情 報 学 研 究 室	准教授	宇仁 義和		

◇網走寒冷地農場

教 育 研 究 部	教 授	伊藤 博武			
-----------	-----	-------	--	--	--

Campus Map

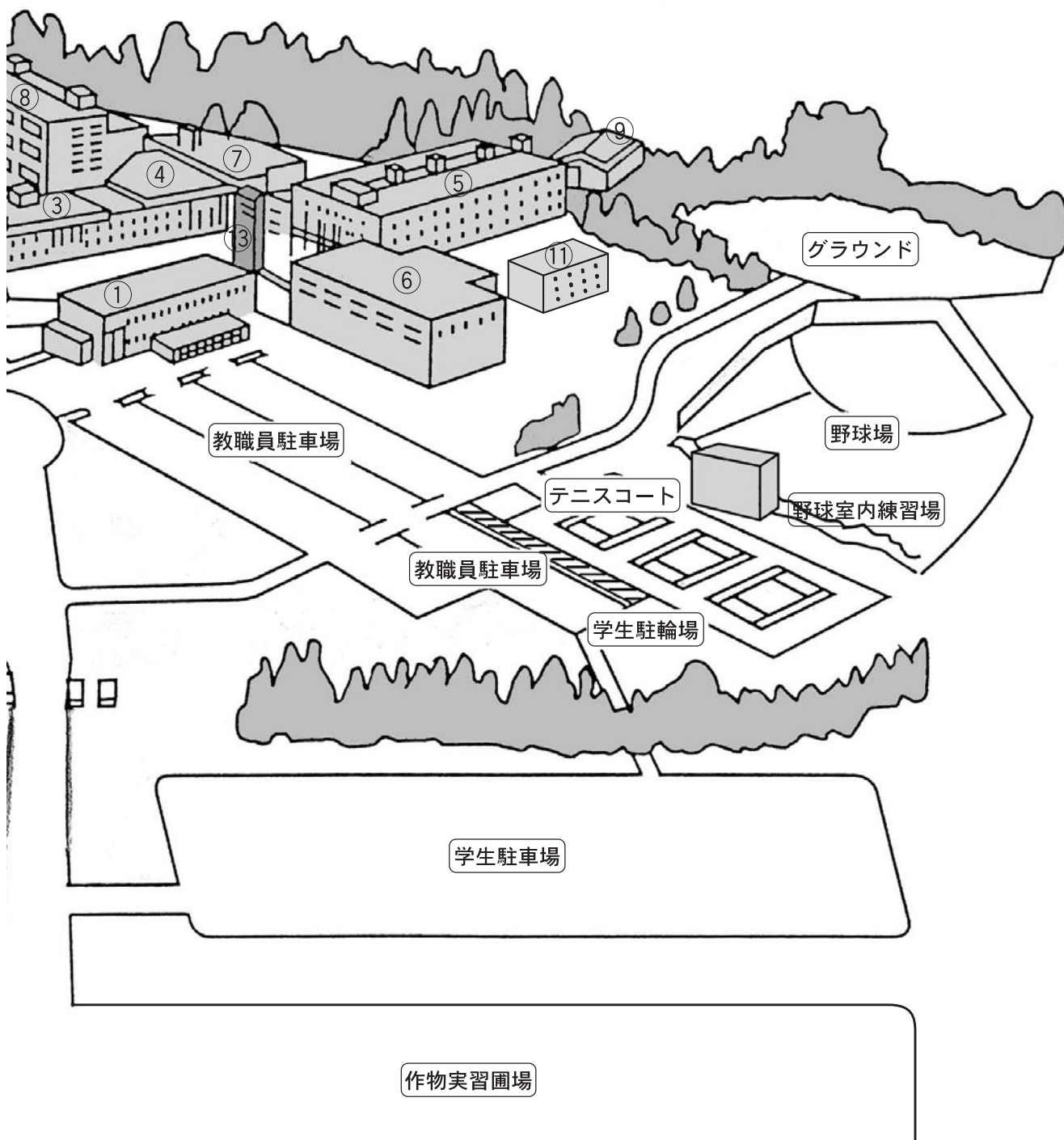
◆学内施設の位置を確認しましょう◆



○ 学内のおもな施設 ○

- 1号館・大学本部～①
- 2号館・研究講義棟～②
- 3号館・第一食堂（ジャングルポケット）～③
- 4号館・学術情報センター～④
- 5号館・第一研究実験棟～⑤
- 6号館・体育館～⑥
- 7号館・第二食堂（レストラン クリオネ）～⑦
売店（フレンズショップ）～⑦
- 8号館・講義実験棟～⑧
- 9号館・食品加工技術センター～⑨

- 10号館・オホーツク学生会館～⑩
- 11号館・第二研究実験棟～⑪
- 大講義室～⑫
- シンボルタワー～⑬
- 温室～⑭
- 作物生産管理学研究室作物調整室～⑮
- ガラス温室～⑯
- 複合家畜舎～⑰
- バス車庫～⑱



平成28年度(2016年度)東京農業大学年間授業計画 (生物産業学部)

月	日(曜日)	前学期(平成28年4月～平成28年9月)
4	4(月) 4(月)～ 8(金) 11(月)	入学式 新入生各学科ガイダンス、新入生健康診断 在学生ガイダンス、在学生健康診断 新入生学外オリエンテーション 前学期授業開始(7/29まで)
5	2(月) 18(水)	休講日 大学の記念日【授業日】
6		
7	18(月) 23(土)・24(日) 30(土)・31(日)	海の日【授業日】 教育後援会地方懇談会 オープンキャンパス
8	1(月)～ 5(金) 6(土) 8(月)	前学期定期試験 前学期定期試験予備日 } 夏季休業 夏季集中授業
9	上旬 9(金) 17(土)	前学期定期試験の評価開示 オホーツク体育祭(9/18予備日)
		後学期(平成28年9月後半～平成29年3月)
	19(月) 22(木)	敬老の日【授業日】後学期授業開始(1/20まで) 秋分の日【授業日】
10	8(土) 9(日)・10(月) 11(火)	収穫祭(準備・前夜祭) 収穫祭 休講(収穫祭の後片づけ)
11	19(土)・20(日)	推薦入試
12	27(火)	} 冬季休業
1	9(月) 10(火) 20(金) 23(月)～27(金) 28(土) 31(火)	
2	上旬 7(火)～9(木) 28(火)	後学期定期試験の評価開示 一般入試前期 一般入試後期
3	6(月) 7(火) 17(金)	学校法人の創立記念日 卒業確定者及び進級確定者の発表 学位記授与式(オホーツクキャンパス)

注：上記スケジュールはいずれも予定であり、変更することがあります。
変更が生じた場合は、学生ポータル等にて周知しますので確認してください。